

三原市民と市長の「みらいトーク」(第32回)実施結果

目的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日時 令和6年1月30日(火) 18時00分から19時30分

場所 三原市役所 8階 会議室 801

テーマ 起業や事業継続にあたっての課題などについて

参加者 女性起業家(6名)

内容 各項目について市長が質問し、参加者から対話形式で意見を聴取。

1 自己紹介及び活動内容

【参加者から】

- ・三原の食材に惚れ、3年前に福山市から移住してきた。
地域資源を活用した食品を製造・販売しており、まずは市内飲食店で使ってもらい、その後全国展開をめざしていきたい。
- ・約2年前に福井県から佐木島に移住し、飲食店を経営。
雪が降らず、暖かく、住みやすく、店舗経営しやすい場所でもある。
移住するまで佐木島を知らなかったが、良い立地を積極的に発信すべきである。
- ・食とイベントを通じた人との触れ合い、人が集まる場所づくりを念頭に活動している。
三原は観光地ではないが、どうしたら来てもらえるかを工夫する必要がある。
自らが好きで取り組んでいることが、三原のためになるという思いで、取り組んでおり、まずは自らが取り組んでいる事を知ってもらうことから始めたい。
- ・県外での勤務を経た後、帰三してデザイナー・イラストレーターの仕事に従事。
県の移住コーディネーターとして、三原のPRを積極的に行っていきたい。
- ・他市での勤務を経た後、帰三してカメラマン、レンタルスペースを運営。
「何かを始めようとする人と三原を繋ぐ場所」をコンセプトに事業を展開。
三原の魅力は、今始めたら第一人者になれること。三原を盛り上げたいと思っている人は多く、誰もが一步を踏み出せる環境をつくっていききたい。
- ・数年前に帰三し、地元野菜の販売業、有機農家の収穫祭などのイベントにも携わり、地元農家の繋がり野菜販売を通じて、地域活性化に取り組んでいる。
三原は、空港・駅・港と交通インフラが揃っているが、これらを繋ぐシャトルバス等のラストワンマイルが課題。

2 次の各テーマにおける参加者との意見交換の概要

(1) 市民に頑張っている人を知ってもらうにはどのような方法が考えられるか。

【参加者から】

- ・市内各地で魅力的なイベントが実施されており、例えば、海周辺地域と中山間地域におけるイベントを交互に場所を変え実施するなど、幅広く市民に知ってもらう場をつくるのが良い。
- ・三原のすべての情報が分かる SNS サイト等があると良い。
三原の頑張っている人の魅力を伝えるアカウントを作り、モニターで映し出すなどで、取組内容のほか、人物の情報も知ることができる情報発信の仕方が良い。
- ・情報発信ツールは、マップやカタログ・チラシ等、どれを見たら良いか分からないため、一つにまとめると分かりやすい。
- ・高校生プロジェクト等も市民にあまり知られていない状況。
情報発信に加えて、プラスワンの発想により、他のイベントと連携して実施するなど、互いの相乗効果を高めていく取り組みが必要。

(2) 起業家を増やす、活動する人を増やすためには何が必要か。

【参加者から】

- ・起業の観点で言えば、SCC（スタートアップ創出シティカレッジ）等も良いが、少しハードルが高い。ハードルを少し下げて、「ちょっとやってみたい」と思う人達が、緩く始められるものがあると良い。
- ・県外から人を呼び込むことができる街にしたい。
人の魅力が三原の魅力であり、人が繋がりやすい環境をつくり、繋がることのできる街として打ち出し、地元出身の都会暮らしの人などがターゲットの一つでもある。
- ・企業へのインターンシップ制度を個人起業家のところでも展開してみるのも良い。
インターンシップを希望する人の受入が可能な起業家を募って取り組むことで、地域との触れ合いや地域に根ざした活動などが実感できる。
- ・起業する際、商工会議所や各種専門家が対応してくれる制度（中小企業 119 等）が大変役立った。このような有益情報の発信をしっかりと行っていくと良い。

3 市長まとめ

- ・頑張ろうとしている人達に、頑張っている人を知ってもらい、新しい仲間を呼び起こすなど、起業活動が活発に行われる街にしていきたい。
- ・三原を元気にしたい、盛り上げようとする動きを活発化し広げていきたいため、皆様のやろうとする事、やりたい事を、市に投げかけてもらえると有り難い。
- ・皆様のネットワークや各種取組により、引き続き、地域を盛り上げていただきたい。
市として、情報発信や各種取組への協力を積極的に行っていきたい。